

科目名	保育内容演習（健康Ⅰ）		担当教員	酒井 俊郎	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM502
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	大学附属幼稚園園長としての保育現場の経験を生かし、保育・教育における教員（保育者）の役割、とくに子どもの最善の利益につながる課題解決の方法、およびケガや事故等への対応や保護者への連絡、関係諸機関との連携等について講義する。				
到達目標及びテーマ	保育・幼児教育の職について、自覚と誇りを持ち、子どもを取り巻く環境に関心を持ち、自ら実践しようとする意欲を持つ。日々の実践のなかから自分自身で課題を見出し、子どもの最善の利益につながる課題解決の方法を考察することができる。				
授業の概要	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域について学ぶ。まず、保育者等の愛情に支えられた安心・安全な環境のもとで乳幼児が心地良さを味わい、体を十分に動かして生活することが、健康な生活を送るための基礎作りになることを解説する。胎児・乳幼児の身体的な発育・発達を学び、次に基本的な運動能力の発達について理解し、さらに乳幼児の発育・発達に影響を及ぼす要因について学ぶ。「健康、安全などの生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと」をねらいとして、具体的に保育を展開するための内容理解を深められるように解説すると共に、グループワーク等を通して学んでいく。				

授業計画	
第1回	領域「健康」のめざすもの（幼児の健康）
第2回	領域「健康」のねらいと内容（保育の中の健康づくり）
第3回	幼児の健康（子どもの健康と生活環境）
第4回	幼児の発達理解（子どもの理解を深める発達観）
第5回	幼児の発達理解（子どもの体格と生理機能）
第6回	幼児の発達理解（運動機能の発達）
第7回	幼児の発達理解（心の発達と健康・社会性の発達など）
第8回	心の発達と社会的発達（運動あそびと社会性）
第9回	幼児のあそびの発達と健康（幼児の遊びとは何か・遊びの発達過程）
第10回	幼児の体格・運動能力の現状と問題（体格、体力の変遷）
第11回	幼児の生活スタイル（幼児の生活リズム・生活習慣）
第12回	幼児の体格・運動能力測定法と評価（体格・運動能力）
第13回	幼児の安全管理と安全教育、応急処置法（手当の順序、応急処置法）
第14回	運動体験を拓げる体育行事（運動会など）、体育関連行事（園外保育など）
第15回	保育の計画と指導案 保育内容「健康」まとめ

事前学修	0.5時間	幼稚園教育要領（および要領解説）・保育所保育指針などに目を通し、乳幼児の「健康」について自分自身で考えまとめておく。
事後学修	0.5時間	幼稚園教育要領（および要領解説）・保育所保育指針などに目を通し、乳幼児の「健康」についてよくまとめておく。体格・運動能力測定法については自分で測定できるように復習しておく。
フィードバックの方法	翌週以降の配付資料内に記載、および連絡用Mailを用いて行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	35%	授業内および授業に関連した内容でのレポートを求める場合がある。
上記以外の試験・平常点評価	65%	授業中における質問、および15回目に授業内考査を

		行い、理解度を確認する。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育内容 健康 [第2版]	編集代表 春日晃章	(株) 未来	9784860154462	-
参考資料	幼稚園教育要領 (文部科学省)、幼稚園教育要領解説 (文部科学省)、保育所保育指針 (厚生労働省)、保育所保育指針解説 (厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および解説 (内閣府・文部科学省・厚生労働省)			

科目名	保育内容演習（健康Ⅱ）		担当教員	和仁 正子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	幼稚園園長・保育園園長・こども園副園長・幼稚園・保育園・子ども園・幼児支援教室				
実務経験を生かした授業内容	実務経験を生かし、具体的な事例を通した授業内容に努め、より実践的に学びを深める。				
到達目標及びテーマ	子どもが健やかにのびのびと成長するためによい環境を構築することは保育者の切なる願いである。しかし子どもを取り巻く環境は厳しい状態にある。子どものもつ素晴らしい能力や可能性を保育者はどう支えていくべきか、また、子どもの生涯にわたって健康で安全で幸福な生活を送るために、乳幼児期ではどうかかわっていったらよいかを理解する。				
授業の概要	領域「健康」では、人間が生きていくためのベースである健康な生活の基礎をどう育てていくかを学ぶ。子どもの身体の発達や運動発達を理解したうえで、基本的な生活習慣の習得や生活リズムの形成、食育、災害時の行動の仕方など、健康で安全な生活を送るために必要な体験とは何かを理解する。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション（教育要領改訂について）
第2回	子どもの心と体の健康
第3回	子どもの身体の発達と運動能力 ①子どもの身体の発達
第4回	子どもの身体の発達と運動能力 ②運動能力と動きの獲得
第5回	子どもの身体の発達と運動能力 ③安全の指導
第6回	領域「健康」 ①領域「健康」のねらいと内容
第7回	領域「健康」 ②領域「健康」の内容の取扱い
第8回	実際編 ①0～2歳児の生活と動き
第9回	実際編 ②0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得
第10回	実際編 ③0～2歳児の遊び
第11回	実際編 ④3～5歳児の生活習慣の獲得
第12回	実際編 ⑤3～5歳児の運動遊びの実際
第13回	実際編 ⑥3～5歳児の運動遊び指導のポイント
第14回	安全への配慮
第15回	まとめ・保育者の役割 学習到達度確認試験を行う

事前学修	0.5時間	指定した教科書を読み解き、自分自身の考えをもつ
事後学修	0.5時間	毎回学習のまとめを行い、復習をする（授業時に回収）
フィードバックの方法	提出されたレポートについて、課題を明確にし、授業にて全体にコメントをし、理解を促す。学習到達度確認試験を行い、模範解答と解説を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	40%	授業内容の理解度と、自分の考えを論理的に記述
上記以外の試験・平常点評価	60%	学習到達度確認テストと、発表や学習意欲
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
演習 保育内容 「健康」	河邊貴子	建帛社	978-4-7679-5099-0	なし
参考資料	幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領			

科目名	保育内容演習（人間関係Ⅰ）		担当教員	川村 弘子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1CCM504
期待される学修成果	子ども理解 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	幼稚園園長・保育園園長・子ども園副園長・幼稚園教諭・通級支援教室教諭				
実務経験を生かした授業内容	幼稚園・保育園現場での経験を生かし、幼児教育・保育の意義と、子どもの発達や保育者の役割について講義する。				
到達目標及びテーマ	保育者の人間関係・保育者と子どもの人間関係・子ども同士の人間関係は、保育者の子ども観・保育観にかかわり、最終的には保育者のあり方が子どもの育ちを決定することを実践的視野に立って教授し、理解させる。				
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「人間関係」、「他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかわる力を養う」ことを目的として、実践的視野に立って講義を進める。同時に乳幼児期の発達の特徴を把握させる。教育・保育実践ビデオを見ながら、保育者の行動と子どもの行動の関係性について、実際に分析しながら理解させたい。				

授業計画	
第1回	幼児教育・保育の基本
第2回	保育者とは何者か
第3回	幼稚園教育要領・保育所保育指針「人間関係」について
第4回	乳幼児期の発達と人とのかかわり
第5回	保育実践の実際について行動分析（ビデオや情報機器を活用）
第6回	事例検討 人間関係を視点として1
第7回	事例検討 人間関係を視点として2
第8回	事例検討 人間関係を視点として3
第9回	事例検討 保これまでの事例検討からの指導案作成
第10回	事例実践：ビデオや情報機器を活用した行動分析「子どもの仲間関係」と模擬保育
第11回	事例検討 保育者の子どもの見方の変化（タブレットを活用した協議）
第12回	事例検討 保育者の子どもの見方の変化と子どもの変容
第13回	事例検討 子どもの変容にかかわる保育者の「身につけている」行動
第14回	保育実践：ビデオによる行動分析「気になる行動」と模擬保育
第15回	まとめ

事前学修	0.5時間	授業後、次の授業に関する学習についてその都度指示する。
事後学修	0.5時間	授業で学んだことの整理、まとめ。必要に応じて課題を与える。
フィードバックの方法	提出されたレポートにおける課題を明確にし、授業にて全体にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	1)毎時の授業内容や幼児教育・保育に関する資料を読んで、問題意識を持ってレポートする。
上記以外の試験・平常点評価	40%	1)小テストを一回実施。授業で取り扱った内容を理解しているかどうかで評価する。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育実践を支える 人間 関係	成田 朋子著	福村出版	978-4-571-11613-1	なし
参考資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）他 「事例で学ぶ領域人間関係」無藤 隆他著、随時資料を配付			

科目名	保育内容演習（人間関係Ⅰ）		担当教員	和仁 正子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1CCM504
期待される学修成果	子ども理解 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	幼稚園園長・保育園園長・子ども園副園長・幼稚園教諭・通級支援教室教諭				
実務経験を生かした授業内容	幼稚園・保育園現場での経験を生かし、幼児教育・保育の意義と、子どもの発達や保育者の役割について講義する。				
到達目標及びテーマ	保育者の人間関係・保育者と子どもの人間関係・子ども同士の人間関係は、保育者の子ども観・保育観にかかわり、最終的には保育者のあり方が子どもの育ちを決定することを実践的視野に立って教授し、理解させる。				
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「人間関係」、「他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかわる力を養う」ことを目的として、実践的視野に立って講義を進める。同時に乳幼児期の発達の特徴を把握させる。教育・保育実践ビデオを見ながら、保育者の行動と子どもの行動の関係性について、実際に分析しながら理解させたい。				

授業計画	
第1回	幼児教育・保育の基本
第2回	保育者とは何者か
第3回	幼稚園教育要領・保育所保育指針「人間関係」について
第4回	乳幼児期の発達と人とのかかわり
第5回	保育実践の実際について行動分析（ビデオや情報機器を活用）
第6回	事例検討 人間関係を視点として1
第7回	事例検討 人間関係を視点として2
第8回	事例検討 人間関係を視点として3
第9回	事例検討 保これまでの事例検討からの指導案作成
第10回	事例実践：ビデオや情報機器を活用した行動分析「子どもの仲間関係」と模擬保育
第11回	事例検討 保育者の子どもの見方の変化（タブレットを活用した協議）
第12回	事例検討 保育者の子どもの見方の変化と子どもの変容
第13回	事例検討 子どもの変容にかかわる保育者の「身につけている」行動
第14回	保育実践：ビデオによる行動分析「気になる行動」と模擬保育
第15回	まとめ

事前学修	0.5時間	授業後、次の授業に関する学習についてその都度指示する。
事後学修	0.5時間	授業で学んだことの整理、まとめ。必要に応じて課題を与える。
フィードバックの方法	提出されたレポートにおける課題を明確にし、授業にて全体にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	1)毎時の授業内容や幼児教育・保育に関する資料を読んで、問題意識を持ってレポートする。
上記以外の試験・平常点評価	40%	1)小テストを一回実施。授業で取り扱った内容を理解しているかどうかで評価する。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育実践を支える 人間 関係	成田 朋子著	福村出版	978-4-571-11613-1	なし
参考資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）他 「事例で学ぶ領域人間関係」無藤 隆他著、随時資料を配付			

科目名	保育内容演習（人間関係Ⅱ）		担当教員	和仁 正子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM505
期待される学修成果	子ども理解 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	幼稚園園長・保育園園長・子ども園副園長・幼稚園教諭・特別支援通級支援教諭				
実務経験を生かした授業内容	幼稚園・こども園現場での経験を生かし、幼児教育・保育の意義と、子どもの発達や保育者の役割について講義する。				
到達目標及びテーマ	保育者の人間関係・保育者と子どもの人間関係・子ども同士の人間関係は、保育者の子ども観・保育観にかかわり、最終的には保育者のあり方が子どもの育ちを決定することを実践的視野に立って教授し、理解させる。				
授業の概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」について指導徹底するために、幼児の人間関係、人とかかわる力を育てるための保育者の援助・指導について、実践的視座に立って講義を進める。幼児の人間関係は保育者との関係の視点で捉える必要がある。そのためには具体的な実践事例を提示し、それを分析・検討しながら考察していくことを中心に考えていきたい。また、現在、保育の現場は激動していることから、報道される子ども（保育）に関する記事を取り上げ、社会事象に関心を持って授業に臨ませたい。				

授業計画	
第1回	領域「人間関係」のねらいと内容について
第2回	領域「人間関係」の概要
第3回	子どもの発達と人間関係（情報機器活用による保育の構想）
第4回	保育者と子どもとのかかわり（1）集団づくり
第5回	保育者と子どもとのかかわり（2）対話的關係
第6回	保育者と子どもとのかかわり（3）子ども同士の関係
第7回	保育者と子どもとのかかわり（4）幼児理解と評価
第8回	特別な支援を必要とする子どもの理解と援助
第9回	特別な支援を必要とする子どもの保育実践（ビデオなどを活用して）
第10回	保育内容としての人間関係1（ビデオ視聴後グループ協議と指導案の作成）
第11回	保育者間の人間関係2（指導案作成）
第12回	模擬保育とカンファレンス（1）
第13回	模擬保育とカンファレンス（2）
第14回	模擬保育とカンファレンス（3）
第15回	まとめ

事前学修	0.5時間	授業後、次の授業に関する学習についてその都度指示をする。
事後学修	0.5時間	授業で学んだことの整理、まとめ。必要に応じて課題を与える。
フィードバックの方法	レポートに対し課題を明確にし授業時にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	毎時の授業内容や提示される資料を課題にそってレポートにまとめる
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業内容の理解が理解されているかどうかを小テストにて確認する
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育実践を支える 人間関係	成田 朋子	福村出版	978-4-71-11613-1	なし
参考資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）他			

科目名	保育内容演習（人間関係Ⅱ）		担当教員	川村 弘子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM505
期待される学修成果	子ども理解 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験	幼稚園園長・保育園園長・子ども園副園長・幼稚園教諭・特別支援通級支援教室教諭				
実務経験を生かした授業内容	幼稚園・こども園現場での経験を生かし、幼児教育・保育の意義と、子どもの発達や保育者の役割について講義する。				
到達目標及びテーマ	保育者の人間関係・保育者と子どもの人間関係・子ども同士の人間関係は、保育者の子ども観・保育観にかかわり、最終的には保育者のあり方が子どもの育ちを決定することを実践的視野に立って教授し、理解させる。				
授業の概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」について指導徹底するために、幼児の人間関係、人とかかわる力を育てるための保育者の援助・指導について、実践的視座に立って講義を進める。幼児の人間関係は保育者との関係の視点で捉える必要がある。そのためには具体的な実践事例を提示し、それを分析・検討しながら考察していくことを中心に考えていきたい。また、現在、保育の現場は激動していることから、報道される子ども（保育）に関する記事を取り上げ、社会事象に関心を持って授業に臨ませたい。				

授業計画	
第1回	領域「人間関係」のねらいと内容について
第2回	領域「人間関係」の概要
第3回	子どもの発達と人間関係（情報機器活用による保育の構想）
第4回	保育者と子どもとのかかわり（1）集団づくり
第5回	保育者と子どもとのかかわり（2）対話的關係
第6回	保育者と子どもとのかかわり（3）子ども同士の関係
第7回	保育者と子どもとのかかわり（4）幼児理解と評価
第8回	特別な支援を必要とする子どもの理解と援助
第9回	特別な支援を必要とする子どもの保育実践（ビデオなどを活用して）
第10回	保育内容としての人間関係1（ビデオ視聴後グループ協議と指導案の作成）
第11回	保育者間の人間関係2（指導案作成）
第12回	模擬保育とカンファレンス（1）
第13回	模擬保育とカンファレンス（2）
第14回	模擬保育とカンファレンス（3）
第15回	まとめ

事前学修	0.5時間	授業後、次の授業に関する学習についてその都度指示をする。
事後学修	0.5時間	授業で学んだことの整理、まとめ。必要に応じて課題を与える。
フィードバックの方法	レポートに対し課題を明確にし授業時にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	毎時の授業内容や提示される資料を課題にそってレポートにまとめる
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業内容の理解が理解されているかどうかを小テストにて確認する
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育実践を支える 人間関係	成田 朋子	福村出版	978-4-71-11613-1	なし
参考資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）他			

科目名	保育内容演習（環境Ⅰ）		担当教員	水谷 亜由美	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM506
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験を生かし、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価について、具体的事例を取り入れた演習を行う。				
到達目標及びテーマ	領域「環境」のねらいと内容を理解する。環境にかかわりながら生活し、遊ぶ子どもの育ちを支える保育者の役割について考え、子どもの成長・発達と環境についての関係性についての理解も深めていく。さらに、子どもを「主体」とする視点から、環境を構成する理論や方法を身に付ける。				
授業の概要	子どもは、自らの力をもって環境とかわり成長発達する。「環境とかわる力」は遊びや生活、周囲との関係の中でこそ育まれていく。保育者は、そのことを踏まえ、環境を構成し子どもの健やかな育ちを支え、保障していくことが重要となる。そこで、本講義では、様々な視点から子どもを取り巻く「環境」について学んでいく。				

授業計画	
第1回	幼稚園教育の基本と育みたい資質能力について
第2回	保育内容「環境」のねらいと内容について
第3回	領域「環境」の変遷と保育実践の動向
第4回	子どもの「環境とかわる力」の発達を支えているもの
第5回	環境構成と領域「環境」
第6回	保育者の役割と領域「環境」
第7回	領域「環境」と実践上の留意点、情報機器の取り扱いについて
第8回	指導計画と領域「環境」
第9回	指導計画の作成1（子ども理解と指導案の作成について）
第10回	指導計画の作成2（環境構成と援助、情報機器と教材の活用について）
第11回	指導計画の作成3（評価について）
第12回	模擬保育とその振り返り1（子ども理解について）
第13回	模擬保育とその振り返り2（環境構成と援助について）
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校の学びについて
第15回	領域「環境」における幼児期の学びについて

事前学修	0.5時間	次の授業に関する課題を示すので、事前に調査・収集を行うこと。
事後学修	0.5時間	ワークシートに、その日の学修のポイントを明記すること。
フィードバックの方法	レポートは、個別にコメントして返却するとともに、全体に総合評価を伝え、質問に応じる。模擬保育や演習は、実践後に評価を全体に伝えた上で、指導案にコメントを記述して個人の課題を明確に把握できるようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	40%	領域「環境」のねらいと内容、保育者の役割と環境構成、評価などについての理解
上記以外の試験・平常点評価	60%	補足事項に記入

補足事項	指導案作成、模擬保育における保育の構想力 30% 演習やグループワークにおける意欲・関心・態度 20% 自己評価 10%
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育講座⑨ 保育内容「環境」	久保健太・高嶋景子・宮里暁美(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09039-6	なし
幼稚園教育要領	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81422-2	なし
参考資料	『保育所保育指針』平成29年4月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年4月 など			

科目名	保育内容演習（環境Ⅱ）		担当教員	水谷 亜由美	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM507
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験を生かし、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価について、具体的事例を取り入れた演習を行う。				
到達目標及びテーマ	本講義においては、幼児期の保育を展開していく上でどのような保育環境が必要か、またそうした保育環境はどのようにすれば構成していけるのかについて考えていく。また、保育施設内の環境の大切さについても具体的に考え、理解することを目的とする。				
授業の概要	乳幼児期の子どもは、自ら環境を取捨選択する。発達段階に応じて自分の身近な環境にふれながら成長していく。その意味において、幼児の環境と成長は大きく関わっている。保育者などの身近な存在がどのような環境を与えていくと子どものよりよい成長につながるのかについて考えていく。乳幼児期の環境の内容について、テキスト、ビデオ等を活用し学修するとともに、環境構成の試行や模擬保育など演習を通して具体的に考えていく。				

授業計画	
第1回	「環境Ⅱ」についてのガイダンス、領域「環境」のねらいと内容について
第2回	「環境を通して行う」保育とは（その考え方と実践事例）
第3回	子どもの「環境とかかわる力」と絵本環境1（絵本環境のねらいと意義）
第4回	子どもの「環境とかかわる力」と絵本環境2（模擬保育：絵本環境の構成と評価）
第5回	子どもの「環境とかかわる力」とキャンパスマップ1（情報機器を活用したキャンパスマップ作成のねらいと意義）
第6回	子どもの「環境とかかわる力」とキャンパスマップ2（模擬保育：情報機器を活用したキャンパスマップの作成と評価）
第7回	子どもの「環境とかかわる力」の実際1（園環境の構造、見学の視点の整理）
第8回	子どもの「環境とかかわる力」の実際2（附属幼稚園見学からみとる環境の実際、ビデオ録画における留意点）
第9回	子どもの「環境とかかわる力」の実際3（園見学からみとった環境についての振り返りと評価、指導計画の構成）
第10回	子どもの「環境とかかわる力」と様々な行事1（園内外の行事の実際）
第11回	子どもの「環境とかかわる力」と様々な行事2（園内外の行事実施における留意点）
第12回	子どもの「環境とかかわる力」とアフォーダンス
第13回	領域「環境」と保育の実際1（環境構成の計画・準備等模擬保育の事前指導）
第14回	領域「環境」と保育の実際2（環境構成の試行を中心とした模擬保育の実施）
第15回	領域「環境」と保育の実際3（環境構成の評価）

事前学修	0.5時間	授業後、次の授業に関する事前学修についてその都度指示する。
事後学修	0.5時間	授業で学んだことの整理、まとめ。必要に応じて課題を与える。
フィードバックの方法	レポートは、個別にコメントを記入して返却するとともに、総合評価と解説を伝え、質問に応じる。絵本環境とキャンパスマップ、環境構成図は、授業内に全体的な評価を伝えた上で、課題返却時に個別にコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	20%	領域「環境」のねらいと内容、保育者の役割と環境構成、評価などについての理解
上記以外の試験・平常点評価	80%	補足事項に記入

補足事項	絵本環境、キャンパスマップ、環境構成の試行における保育の構想力、実践力、活用力 40% 演習やグループワークにおける意欲・関心・態度 30% 自己評価 10%
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育講座⑨ 保育内容「環境」	久保健太・高嶋景子・宮里暁美(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09039-6	なし
幼稚園教育要領	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81422-2	なし
参考資料	『保育所保育指針』平成29年4月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年4月 など			

科目名	保育内容演習（環境Ⅱ）		担当教員	松本 信吾	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM507
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験を生かし、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価について、具体的事例を取り入れた演習を行う。				
到達目標及びテーマ	本講義においては、幼児期の保育を展開していく上でどのような保育環境が必要か、またそうした保育環境はどのようにすれば構成していけるのかについて考えていく。また、保育施設内の環境の大切さについても具体的に考え、理解することを目的とする。				
授業の概要	乳幼児期の子どもは、自ら環境を取捨選択する。発達段階に応じて自分の身近な環境にふれながら成長していく。その意味において、幼児の環境と成長は大きく関わっている。保育者などの身近な存在がどのような環境を与えていくと子どものよりよい成長につながるのかについて考えていく。乳幼児期の環境の内容について、テキスト、ビデオ及び実体験を基に具体的に考えていく。				

授業計画	
第1回	「環境Ⅱ」についてのガイダンス、領域「環境」のねらいと内容について
第2回	「環境を通して行う」保育とは（その考え方と実践事例）
第3回	子どもの「環境とかがわる力」と絵本環境1（絵本環境のねらいと意義）
第4回	子どもの「環境とかがわる力」と絵本環境2（模擬保育：絵本環境の構成と評価）
第5回	子どもの「環境とかがわる力」とキャンパスマップ1（情報機器を活用したキャンパスマップのねらいと意義）
第6回	子どもの「環境とかがわる力」とキャンパスマップ2（模擬保育：情報機器を活用したキャンパスマップの作成と評価）
第7回	子どもの「環境とかがわる力」の実際1（園環境の構造、見学の視点の整理）
第8回	子どもの「環境とかがわる力」の実際2（附属幼稚園見学からみとる環境の実際、ビデオ撮影における留意点）
第9回	子どもの「環境とかがわる力」の実際3（園見学からみとった環境についての振り返りと評価、指導計画の構成）
第10回	子どもの「環境とかがわる力」と様々な行事1（園内外の行事の実際）
第11回	子どもの「環境とかがわる力」と様々な行事2（園内外の行事実施における留意点）
第12回	子どもの「環境とかがわる力」とアフォーダンス
第13回	領域「環境」と保育の実際1（環境構成の計画・準備等模擬保育の事前指導）
第14回	領域「環境」と保育の実際2（環境構成の試行を中心とした模擬保育の実施）
第15回	領域「環境」と保育の実際3（環境構成の評価）

事前学修	0.5時間	授業後、次の授業に関する事前学修についてその都度指示する。
事後学修	0.5時間	授業で学んだことの整理、まとめ。必要に応じて課題を与える。
フィードバックの方法	レポートは、個別にコメントを記入して返却するとともに、総合評価と解説を伝え、質問に応じる。絵本環境とキャンパスマップ、環境構成図は、授業内に全体的な評価を伝えた上で、課題返却時に個別にコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	20%	領域「環境」のねらいと内容、保育者の役割と環境構成、評価などについての理解
上記以外の試験・平常点評価	80%	補足事項に記入
補足事項	絵本環境、キャンパスマップ、環境構成の試行における保育の構想力、実践力、活用力 40% 演習やグループワークにおける意欲・関心・態度 30%	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育講座⑨ 保育内容 「環境」	久保健太・高嶋景子・宮里暁 美(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09039-6	なし
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	なし
参考資料	『保育所保育指針』平成29年4月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年4月 など			

科目名	保育内容演習（言葉Ⅰ）		担当教員	水谷 亜由美	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM508
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験を生かし、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価について、具体的事例を取り入れた演習を行う。				
到達目標及びテーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期から幼児期にかけての言葉の発達の基礎・基本となる事項についての理解を深める。 2. 乳幼児の言葉の発達に保育者としてどうかかわればいいのか、様々な指導方法について理解し実践力を養う。 3. 現代の子育て文化と保育の役割りについて多角的に捉える視点を学ぶ。 4. ことばが生み出されていく道筋とそこでの保育者の役割を学ぶ。 				
授業の概要	授業では保育内容「領域 言葉」のねらいや意味を学び、乳児期から幼年期にかけての子どもの言語習得の過程、その発達についての検討を行いながら、ことばの獲得と人間形成とのかかわり、その後の読み書き能力との関係性についての認識を深め、保育にとって望ましい言語環境のあり方を探っていきたい。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション 乳児のことばの発達授業の概要の説明。知的発達の芽生えとしての「首の座り」「人見知り」「指差し」について
第2回	乳幼児のことばの発達（1）話しことばの発達 一語文から二語文・三語文への発達について
第3回	乳幼児のことばの発達（2）幼児音、幼児語の特質と保育者のかかわり方について
第4回	子どもの社会認識とことばの発達 社会的な概念の獲得課程について具体的事例から学ぶ
第5回	子どもの虚構認識の発達 「物語＝虚構」の世界と現実世界の分化について
第6回	かな文字の指導 「かな文字」の読みと幼児の「かな文字」習得について
第7回	領域「言葉」と人間の成長、言葉の発達
第8回	領域「言葉」と言語環境・発達環境の重要性
第9回	野生児・孤立児と言語環境 「ホスピタリズム」「臨界期」について
第10回	言葉の発達と言語文化(1) 言葉遊びと幼児の言語発達、とくに「音節」認知についてと指導案の作成
第11回	言葉の発達と言語文化(2) 読み聞かせの模擬保育
第12回	読み言葉の発達と言語文化(3) 「読み聞かせ」と「ブックスタート」の取り組みと教材研究について
第13回	保育者の言葉・保育室の言葉 保育者と子どものやりとり、子どもの心を育てることばかけについて
第14回	ことばの環境としてのメディアの問題 テレビ視聴と乳幼児言葉の発達の問題について、読み聞かせを行うための情報機器の取り扱いについて
第15回	乳幼児の言葉の発達と現代の子育て文化についての討論とまとめ

事前学修	0.5時間	自分の幼児期を振り返り、まわりの大人とどうかかわり、どんな遊びや言葉あそびをしたかをまとめること。幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。
事後学修	0.5時間	授業全体を復習し、今後、実践現場に出ていくことを想定し、深めていきたい論点などをしっかりまとめること。
フィードバックの方法	小テストは模範解答を表示して、自己課題が把握できるようにする。毎回の授業のまとめとレポートは、個別にコメントするとともに、全員分のレポートをまとめたものを提示し、共有する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	60%	絵本ノートの作成。子どもの言葉の育ちと言語環境に関するレポート。

上記以外の試験・平常点評価	40%	授業態度・意欲、小テストと毎回の授業のまとめ
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリント配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			

科目名	保育内容演習（表現Ⅰ）		担当教員	西川 正晃	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1CCM510
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験から、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価など、現場での具体例を授業に反映させる。				
到達目標及びテーマ	①領域「表現」について、指針や要領からそのねらいと内容を理解する。②ねらいと内容から、どのような保育や保育者のかかわりが必要か考える。③領域「表現」を通して、保育の本質を理解し、子どもの最善の利益のために営まれる保育実践のための意欲や関心を高める。				
授業の概要	この授業では、事前のアサインメントから問題を考え、学生同士の主体的で対話的な学びを通して、深い学修を行う。一人ひとりが保育者をめざす意欲を高め、積極的に領域「表現」を探究していく。				

授業計画	
第1回	幼稚園教育の基本と育みたい資質能力について
第2回	保育内容「表現」とは（ねらいと内容）
第3回	豊かな感性と表現を育む環境について
第4回	豊かな感性と表現を育む保育者について
第5回	保育内容「表現」の歴史の変遷について
第6回	子どもの存在と表現について
第7回	諸感覚を通しての感性と表現について
第8回	音・音楽に対する感性と表現について（情報機器と教材の活用）
第9回	造形に対する感性と表現について（情報機器と教材の活用）
第10回	子どもの感性と表現を大切にする保育実践の工夫（指導案の作成について）
第11回	子どもの感性と表現を大切にする保育実践の工夫（評価について）
第12回	模擬保育実施と振り返り 第1回目（音楽に対する感性と表現）
第13回	模擬保育実施と振り返り 第2回目（造形に対する感性と表現）
第14回	子どもの感性と表現を育む保育者について
第15回	保育内容「表現」の課題（様々な連携について）

事前学修	0.5時間	各回に示した内容をアサインメントとする。具体的にはその都度指示を行う。
事後学修	0.5時間	アサインメントに関連する資料や情報を収集する。
フィードバックの方法	・授業後の振り返りシートへのコメントの記入など、授業者への学習支援を丁寧に行う。・振り返りシートなどから見えてきた疑問や質問などについては、個別的是もちろん、必要であれば全体でも振り返るようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	自分自身の解釈や判断を活用し、統合して考えを構築しているかどうか評価。
上記以外の試験・平常点評価	60%	グループワークや授業態度からみる主体性や対話性の充実度で評価。自己評価。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新保育講座11保育内容「表現」	平田智久・小林紀子・砂上史子編	ミネルヴァ書房	978-4-623-05573-9	特になし
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	特になし
参考資料	保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			

科目名	保育内容演習（表現Ⅰ）		担当教員	木野 由里恵	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1CCM510
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験から、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価など、現場での具体例を授業に反映させる。				
到達目標及びテーマ	①領域「表現」について、指針や要領からそのねらいと内容を理解する。②ねらいと内容から、どのような保育や保育者のかかわりが必要か考える。③領域「表現」を通して、保育の本質を理解し、子どもの最善の利益のために営まれる保育実践のための意欲や関心を高める。				
授業の概要	この授業では、事前のアサインメントから問題を考え、学生同士の主体的で対話的な学びを通して、深い学修を行う。一人ひとりが保育者をめざす意欲を高め、積極的に領域「表現」を探究していく。				

授業計画	
第1回	幼稚園教育の基本と育みたい資質能力について
第2回	保育内容「表現」とは（ねらいと内容）
第3回	豊かな感性と表現を育む環境について
第4回	豊かな感性と表現を育む保育者について
第5回	保育内容「表現」の歴史の変遷について
第6回	子どもの存在と表現について
第7回	諸感覚を通しての感性と表現について
第8回	音・音楽に対する感性と表現について（情報機器と教材の活用）
第9回	造形に対する感性と表現について（情報機器と教材の活用）
第10回	子どもの感性と表現を大切にする保育実践の工夫（指導案の作成について）
第11回	子どもの感性と表現を大切にする保育実践の工夫（評価について）
第12回	模擬保育実施と振り返り 第1回目（音楽に対する感性と表現）
第13回	模擬保育実施と振り返り 第2回目（造形に対する感性と表現）
第14回	子どもの感性と表現を育む保育者について
第15回	保育内容「表現」の課題（様々な連携について）

事前学修	0.5時間	各回に示した内容をアサインメントとする。具体的にはその都度指示を行う。
事後学修	0.5時間	アサインメントに関連する資料や情報を収集する。
フィードバックの方法	・授業後の振り返りシートへのコメントの記入など、授業者への学習支援を丁寧に行う。・振り返りシートなどから見えてきた疑問や質問などについては、個別的是もちろん、必要であれば全体でも振り返るようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	自分自身の解釈や判断を活用し、統合して考えを構築しているかどうか評価。
上記以外の試験・平常点評価	60%	グループワークや授業態度からみる主体性や対話性の充実度で評価。自己評価。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新保育講座11保育内容「表現」	平田智久・小林紀子・砂上史子編	萌文書林	978-4-623-05573-9	特になし
参考資料	保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			

科目名	保育内容演習（表現Ⅱ）		担当教員	田中 美智子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM511
期待される学修成果	子ども理解 自己形成				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	保育士（高齢者と幼児の交流音楽講師を兼業） リトミック講師（教室、保育所、子育て支援、児童館等で指導）				
実務経験を生かした授業内容	指・手遊び・簡易楽器・リトミック・ダンス（振付）等の学びを生かして、音楽劇の創作。発表を前提にそれを見せる対象者に相応しい表現か、幼児にとって可能な内容かを考える力を養う。				
到達目標及びテーマ	子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための援助ができるよう、他の分野との総合性を図り、子どもの発達を捉えながら、豊かな感性や表現する力を養う。到達目標：様々な音楽表現活動を通して、感じたことや考えたことを表現することができ、指導することができる。				
授業の概要	子どもたちが音楽表現しようとする気持ちを育み、援助できるように、子どもの生活の中の音に気付いたり、音楽を身体で感じたり表現したり、子どもと一緒に遊べる指・手遊びの仕方を学び、模擬保育したり、音が簡単にいせ楽しめる楽器（鈴などの簡易楽器やハンドベル）の扱い方をつかみ演奏したり、歌ったり踊ったりと、様々な音楽表現活動を学ぶ。それらを元にして保育にふさわしい指導案を作成する。				

授業計画	
第1回	子どもの生活と音楽 ふさわしい音楽と遊び（CD活用） リズムをたたいてみよう 指揮をしてみよう
第2回	感じて表現しよう（1） みつけたものをイメージ表現しよう（フープ、シフォンスカーフ、大布など道具を用いて）
第3回	感じて表現しよう（2） リズムや音を聴き身体で表現しよう（音の高低、遅い、速い、弱い、強いなど）
第4回	指・手・表現遊びの模擬保育 指導ポイントと改善（1） <父さんゆびどこですetc.>
第5回	指・手・表現遊びの模擬保育 指導ポイントと改善（2） <やまごやいっけんetc.>
第6回	指・手・表現遊びの模擬保育 指導ポイントと改善（3） <おやこのきつねetc.>
第7回	指・手遊びの遊びの模擬保育 指導ポイントと改善（4） <たのしいねetc.>
第8回	第4～7回の表現テスト（指・手・表現遊びetc.）
第9回	保育と楽器1 ハンドベルを演奏しよう。グループで練習と発表
第10回	保育と楽器2 簡易楽器とアコーディオンで合奏しよう。
第11回	身体表現を促す歌 ダンスを覚えて教え合おう<いもほり><あんぱまん体操><こんにちはこんにちは>etc.
第12回	歌とペープサートと絵本と<犬のおまわりさん><ドレミの歌>etc.（情報機器と教材の活用）
第13回	指導案作成 第1～12回目で学んだものを元に各人で指導案を作成し、4～5人グループで交流。
第14回	模擬保育研究（1） グループからの1案を発表し交流。発表者3～4人。
第15回	模擬保育研究（2） グループからの1案を発表し交流。発表者3～4人。

事前学修	0.5時間	1～3回 自然・生活の中の様子、音を探してみる。4～7回 指名された人は指・手・表現遊び手順を覚えて十分の練習をする。9～12回 読譜。13回 指導案作成準備として1回目からの振り返り。14～15回指導案の見直しと発表準備
事後学修	0.5時間	1～3回 自然・生活の中の様子、音への関心を深める。4～7回指遊びの仕方確認と覚え。9～10回各楽器の指導法を確認。11～12回ダンスやペープサートの扱いや指導法の確認。13-15回指導案を使って模擬保育できるように準備・練習、確認。
フィードバックの方法	レポートを授業内に返却し、個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	50%	指導案の提出
上記以外の試験・平常点評価	50%	指・手遊びのテスト(40%)授業の参加度(10%)

定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なかよしあそびうた	編集：清野由紀子	(株)ドレミ楽譜出版社	978-4-285-10749-4	適宜プリントを配布
参考資料	「保育所保育指針」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」			

科目名	保育内容演習（表現Ⅲ）		担当教員	早矢仕 晶子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2CCM512
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教員（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	教育現場の経験を生かし、造形活動における保育者の役割について、幼児の表現の理解について講義演習する。				
到達目標及びテーマ	子どもの発達を表現（美術的分野を中心として）の領域から捉え、子どもの理解を深め保育内容について具体的に学び深めることができる。				
授業の概要	子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現できるような活動についての研究をおこなう。材料の選択、道具の取り扱い、活動場所の設定等、具体的に考え授業計画を立て模擬保育をおこなう。				

授業計画	
第1回	授業内容の説明 教科の目的と内容の理解
第2回	人体について—大人と子どもの描きわけ
第3回	人体について—子どもを描く、人体バランスの理解
第4回	幼児の表現の発達—絵画表現について（情報機器と教材の活用）
第5回	幼児の表現の発達—立体表現について 目標：表現の発達から子どもを理解する（ビデオ視聴）
第6回	教材研究—発達にあった教材設定—参考実践例から
第7回	教材研究—5歳児にむけて（指導案の作成）
第8回	教材研究—安全性、時間配分
第9回	教材研究—模擬授業 目標：幼児の発達にあった教材づくり（環境構成を中心として）
第10回	素材演習—身近な素材の活用
第11回	素材演習—道具の準備、教室環境
第12回	素材演習—模擬保育 目標：身近な材料の理解（環境構成を中心として）
第13回	自己紹介のための小道具制作（幼児参加型）-アイデアを練る、材料準備
第14回	自己紹介のための小道具制作（幼児参加型）-制作、発表準備 パワーポイントによる発表
第15回	自己紹介のための小道具制作—発表 パワーポイントによる発表

事前学修	0.5時間	参考資料の予習。構想を練る。素材探し。指定用具の用意。
事後学修	0.5時間	幼児の表現について調べる。人体バランスについて考察を深める。表現の発達の復習。模擬授業の改善と振り返り。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100%	授業への参加度（アイデア力、事前準備、教室の使用態度、保育者としての適応性）50%、提出物の充実度50%
補足事項	提出課題に未提出があった場合は、失格となる。	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料	編著樋口一成	萌文書林	978-4-89347-311-0	なし
参考資料	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			